

# 雪深い所の白ねぎ拡大プラン

作成年度 令和4年度  
作成者 浅田 昭弥

# 雪深い所の白ネギ拡大プラン

作成者 浅田 昭弥

事業主体 浅田 昭弥

## はじめに

会社を早期に退社後、我が家には広大な農地がある、これを活用して農業を営めば何とか食っていけるはずだと考え、専業農家になったのが14年前のことでした。

農業大学校で知識を習得し、勧めもあって白ネギ栽培を始めました。

平成22年度に「浅田チャレンジプラン」を作成して、白ネギ栽培面積の拡大と機械利用によるコストダウンを図ってきました。プランに定めた目標は達成できましたが新たな課題も生まれています。

白ネギはJAの共同選果場に出荷していますが、細物の選果がなく、また11月中頃から出荷制限がかかる可能性が大きい等、せっかく作ったものを換金できず反収を上げられないこと、自家選果をすることにより地域の人に雇用が生まれることから、出荷調整の機械を整備し個選出荷とすることにしました。

### 1) 生産経営の現状

現在白ネギ120.6a、水稲404.5a、施設トマト2.4a、そば160.5aを生産しております。

白ネギは9月~12月に収穫し、全量をJAの共同選果場に出荷しています。収穫期間が短いため、季節雇用のアルバイトを募り4~5名の体制で掘り取り、共同選果場に出荷していますが、雇用費がかさんでいます。また、共同選果場は個選に比べ製品率が低く、M規格(細物)の製品を選果しないため売上の負の要素となっています。近年の手数料アップや、11月に入ると共同選果場に入荷が過多となり、出荷制限が設けられる事が多くなり、また降雪により収穫できなくなる事態も予想されます。

白ネギ苗は自家育苗していますが、厳寒期の1月に播種し育苗するので、温度管理等が思う様にかず、移植時には播種した種の70%程度しか苗になっていません。苗の本数が少ないと収穫量に影響するので、育苗方法の向上が必要だと実感しています。

白ネギを作付けている圃場は、近年の長雨が滞留し生育不良を起こし、出荷ができない箇所(令和3年度は20a程度)があります。暗渠排水及び額縁排水を施行して対処しています、優良な圃場にするべく努力しています。

水稲は春・秋作業共に白ネギ作業と重なり、集落営農組合に作業委託をしています。作業機械(田植機、コンバイン、籾摺り乾燥機)も持っていないため、売上高と経費が同程度となっています。作業の軽減と経費削減のため、借入地を返し自作地のみ水稲栽培とする予定です。

施設トマトは、育苗ハウスで育苗が終わり空いている期間に栽培し、直売所で販売しています。

そばの栽培は、転作田が遊休農地とならないように栽培を行っています。7月末から8月上旬にかけて播種しますが、近年は降雨が多く、また白ネギ作業と重なり播種できないことが増えてきました。

上記の現状を踏まえ、作業が重なる水稻・白ネギ栽培を整理し、いかに収益アップにつなげるか検討した結果、白ネギを個選出荷し水稻栽培を縮小することとしました。

#### 作目と栽培面積（現状）

|         |        |      |        |
|---------|--------|------|--------|
| 白ネギ     | 水稻     | トマト  | そば     |
| 120.6 a | 404.5a | 2.4a | 160.5a |

#### 労働力

| 氏名    | 年齢 | 続柄 | 年間農業従事日数 | 備考            |
|-------|----|----|----------|---------------|
| 浅田 昭弥 |    | 本人 | 250日     | 白ネギ、水稻、トマト、そば |
|       |    | 妻  | 60日      | 白ネギ、水稻、トマト、そば |
| アルバイト | 4名 |    | 280日     | 白ネギ           |

#### 作業体系

| 作物  | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月      | 6月 | 7月 | 8月 | 9月     | 10月 | 11月 |
|-----|----|----|----|----|---------|----|----|----|--------|-----|-----|
| 白ネギ | ←→ |    | ←→ |    | ←→      |    |    |    | ←→     |     |     |
|     | 播種 |    | 育苗 |    | 定植準備・定植 |    |    |    | 収穫・片付け |     |     |

#### 機械施設等



## 2) 課題等

### 【白ネギ】

- ・ 厳寒期の育苗方法の習得

厳寒期の1月に播種するので温度管理ができてなく、不揃いな苗となる。

- ・ 作期の拡大

現在5月初旬に定植しているので、収穫が9月下旬となり、早期に降雪があると収穫不能となる可能性がある。

- ・ 反収の向上

共同選果場を利用しているが、製品率が悪く細物の選果がないので反収が減少している。

- ・ 優良農地の確保

山間の農地で営農しており、湧水、滞水が発生する圃場が多い。その中で畑作物を栽培する優良農地を確保するのは大変である。

- ・ トラクター及びロータリーの性能向上

現在使用しているトラクターは、導入から27年以上が経過して修繕費もかさみ作業中の故障により適期作業が難しくなっていること、また、反収増加のための作業工程の見直しにより、4月上旬に水稲及び白ネギの耕耘作業が集中するようになったため、トラクターの性能の向上（馬力及びロータリ幅）が不可欠になっている。

## 2 生産経営等の改善内容(目標)と効果

### 1) 改善内容

#### 【白ネギ】

- ・ 厳寒期の育苗方法の習得

普及所等の関係機関に指導を仰ぎ、解決したい。

- ・ 作期の拡大

盆前からの収穫を目指して作業工程の見直しをおこなう。ハウス内を加温するなどして厳寒期から育苗を行い、定植時期を早めることによって、まずは9月初めから収穫できるようにし、ゆくゆくは8月中から収穫できるようにする。

- ・ 反収の向上

白ねぎの調整・選別機を導入し、個人選果とし出荷する。無駄なく出荷し売上高の向

- 上を図る。
- ・優良農地の確保
  - 圃場の状態を踏まえ、暗渠排水等を実施し改善を図る。
- ・トラクター及びロータリーの性能向上

## 2) 事業の効果

### ①反収及び売上の拡大

苗半作と言われるように苗作りは非常に重要である。充実した苗を作り移植することにより、反収アップが計れる。(種から苗になる率を70%程度から80-90%に向上。)

また、個人選果をすることで、経費が削減できるほか、細物の出荷及び共同選果場の出荷制限を心配することなく安定した経営が可能となり、売上と所得が拡大する。

優良農地確保に向けては、圃場がもともと水田からの転作であるため、暗渠排水、額縁排水を随時施行することにより、優良農地を確保していく。

安定した育苗、個人選果が可能となったら、作期の拡大に挑戦し、可能な限り作期の拡大を目指す。(収穫期を8月まで前倒し。)

### ②地域への波及効果

個人選果にすることで地域の雇用を現在の4人計280日から5人計450日程度へ拡大できる。また、白ネギ部会のメンバーは年々減少傾向にあるが、本プランに取り組むことで本町の白ネギ出荷量アップに貢献できる。

## 3 目標達成に向けての取組(年次別の行動計画)

### (1)目標値設定

| 項目                | 現状<br>R3 | 1年目<br>R4 | 2年目<br>R5 | 3年目<br>R6 | 目標年<br>R7 |
|-------------------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 付加価値額<br>(千円)     | 指数100※   | 指数143     | 指数116     | 指数144     | 指数126     |
| 売上(千円)            | 指数100※   | 指数112     | 指数126     | 指数126     | 指数137     |
| 白ネギ反収<br>(kg/10a) | 指数100※   | 指数153     | 指数176     | 指数176     | 指数179     |

※現状を100として指数で表示

(2) 目標達成に向けての取組

| 項 目           | 内 容   | R4 | R5 | R6 |
|---------------|---|----|----|----|
| 売上及び反収の拡大     | 厳寒期の育苗方法の習得、作期の拡大、<br>個選出荷、優良農地の確保                | ○  | ○  | ○  |
| ネギ選別・調整機一式の導入 | ネギ選別機、ネギ調整機、コンプレッサー、補助タンク、エアホース、エアガン、カールホース、ネギネット | ◎  |    |    |
| ネギ結束機の導入      | 手動式結束機または電動式結束機                                   | ○  | ○  |    |
| トラクターの導入      | トラクター (24ps)                                      |    |    | ◎  |

\* ◎は県、町の支援が必要なもの (がんばる農家プラン支援事業)

4 機械・作物の年次別計画

| 年 度       | R4   | R5  | R6  |
|-----------|--|---|---|
| 機械・施設導入計画 | ネギ選別・調整機一式<br>(5,392,200 円)                  |   | トラクター (24ps)<br>(3,776,300 円)                 |
| 対象作物の生産計画 | 白ネギ 120.6a<br>水稲 88a<br>トマト 2.4a<br>そば 127.9 | 白ネギ 120.6a<br>水稲 88a<br>トマト 2.4a<br>そば 127.9a | 白ネギ 120.6a<br>水稲 88a<br>トマト 2.4a<br>そば 127.9a |

(注) ( ) 書きには事業費を記入すること

5 支援事業の内容

| 内容           | 事業費 (円)   |    |           | 負担区分           |
|--------------|-----------|----|-----------|----------------|
|              | R4        | R5 | R6        |                |
| ネギ選別・調整機一式   | 5,392,200 |    |           | 県 1/3<br>町 1/6 |
| トラクター (24sp) |           |    | 3,776,300 |                |

(注：ソフト事業についても記入すること)

## 6 添付資料

- ・目標年までの経営収支試算表
- ・カタログ等（導入予定機器の仕様が分かる書類）
- ・導入機械の規模決定根拠

